第二講『松陰中納言』　同志社大学

次の文章は、松陰大臣の娘である女御が、帝の御子を出産する直前の様子を描いたものである。これを読んで、後の設問に答えよ。

女御の御産の頃も近づかせ給ひければ、「松陰殿に渡り給ひなん」とのたまはすれども、一夜がほども隔て給はんことをただに思して添ひおはしましければ、「内裏にては忌むなることを」とて、南殿の御会におはしましけるままに、人々はかりて御車に奉らす。

四条京極あたりを過ぐさせ給ひけるほどに、御簾の下よりあやしき風の吹き入りけるに、御心地の乱りがはしくならせ給ひて、いとたうなやませ給ひけるに、御供のかぎり、足をそらにして慌て迷ふ。「されど、ここもとにてはいかがは[1]せん。御車を急ぎて」と、言ひののしる。からうして(ア)入れ奉るに、大臣も門の外まで出で給うて、「こはいかにせん」とて、共に御心も乱るるほどに思すれど、降ろし奉りて、御枕を離れ給はねども、我かの御気色のいとまさらせ給へば、「上に奏し奉らんも、さこそ御気色のおはしますらん」と、恐れ給へらるれども、「(A)さてやは、やまん」とて、告げさせ給ひければ、「さ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

ればよ。御名残のつきすまじきにてありつるは、かかることにてこそあらめ」など、その際を知らせて、「[B]誰がはからひにかありつる。我も行かではえあるまじけれ」と、おどろおどろしく騒がせ給へれど、「軽々しき行幸は、世の人の思は[2]んこ とも候ふなれば」とて、世に数へらるるほどの尊き僧たち、陰陽の司、御宝の剣などを遣はさる。夜も昼も御使ひの行き交ふさまは、いとあわただし。

御修法の声、絶ゆる間もなく、護摩の煙の立ちさらでも、いささかの御験だに見えさせ給はねば、島より伴ひ給ひし阿闍梨の、須磨より帰り給はんとのたまへるを、「ここまでいまして、故郷を見給はぬことやある」と相具し給へるを、賀茂川の御堂に据ゑさせてありけるを召し給ひて、かかる御悩みに見るめも暗くなりて、[C]共に絶え果つべき心地のし給ふなり。さもおはせば、御後の世までも心の闇に迷ひぬべければ、灯火となりぬべき御わざのことまで[イ]沙汰しのたまひて、御涙ぐませ給へば、阿闍梨も「よよ」と泣き給うて、「[a]ただならぬ御身の上には、物の怪などの付き添ふためしのいと多く候ふなり。さあら[3]んには、尊き僧たちのあまたましまさんには、やがてそれと知られ給はんものを、日にそひて[b]あつしく悩ませ給ふら[4]んこそ心得られね。いかにしふねき魂なりとも、名告り（なの）をせんほどのしるしはありな[5]ん。されども、世に数ま

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

へられぬ身の、やんごとなき中に出でまじらはんも、目立つべかめれば、物を隔てて御声をだに聞かましかば」とのたまはすれば、「何かは」とて召し具し給うて、御屏風を隔て据ゑさせ給ひけるに、あやしき御声の折々うち咳かせ給へれば、「さればよ」と思す。

（『松陰中納言』）

注

松陰殿　女御の父、松陰大臣の邸。
内裏にては忌むなること　宮中での出産は穢れとしてはばかられた。
南殿の御会　宮中の紫宸殿で行われる宴。
御宝の剣　安産守護のための剣。
島より伴ひ給ひし阿闍梨　松陰大臣が、隠岐島から連れてきた高徳の僧。
心の闇　「人の親の心は闇にあらねども子を思ふ道に惑ひぬるかな」（『後撰集』）に依拠した表現。
灯火となりぬべき御わざのこと　死んでしまった時の葬儀の準備。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一 傍線部ａ・ｂの意味として適当なものを、次のうちからそれぞれ一つ選べ。

ａ　ただならぬ

1　身分の高い　2　妊娠している
3　里帰りしている　4　悲しみに暮れている
5　うらやましがられている

ｂ　あつしく

1　情愛が深く　2　信仰心が強く　3　気温が高く
4　動揺が激しく　5　容態が重く

問二 傍線部ア「入れ」、イ「沙汰し」、ウ「召し具し」の動作主として適当なものを、次のうちからそれぞれ一つ選べ。なお、同じ番号をくり返し用いてもよい。

1　女御　2　御供　3　大臣　4　上（帝）　5　阿闍梨

ア＝　イ＝　ウ＝

問三 波線部「あらめ」の「め」と文法的意味が同じものを、本文中の波線部1～5のうちから一つ選べ。

1　いかがはせん　2　思はんことも　3　さあらんには
4　悩ませ給ふらんこそ　5　ありなん

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　傍線部A・Bの解釈として適当なものを、次のうちからそれぞれ一つ選べ。

A　さてやは、やまん

1　女御が危篤になったことを、帝にこのままお知らせしないでおくことはできないだろう
2　女御が危篤になったとしても、帝にこのままお知らせしないでおくことにしよう
3　女御が危篤になったときには、このまま帝のお考えに従うことにしよう
4　女御が危篤になった以上は、帝はこのまま放っておくようなことはなさらないだろう
5　女御が危篤になったからといって、このまま死んでしまうとは帝もお思いにならないだろう

B　誰がはからひにかありつる

1　女御の里帰りが邪魔されたのは、いったい誰の差し金だったのか
2　私を宮中から出さないように画策したのは、大臣の他には誰もいないに違いない
3　女御を宮中から退出させたのは、いったい誰の策略だったのか
4　私の立場を気遣ってくれる人は、大臣の他には誰もいないに違いない
5　女御が松陰殿に里帰りできたのは、いったい誰のお陰だと思っているのか

問五　傍線部C「共に絶え果つべき心地のし給ふなり」の説明として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

1　阿闍梨は、女御の容態を心配する大臣の親心を知って同情し、まるで女御が自分の娘であるかのように思われて、大臣と同様、死んでしまいそうなほど心配した。
2　大臣は、帝が遣わした尊い僧たちの修法によっても女御が快復しない時は、出家して、阿闍梨と一緒に消息を絶ってしまおうと決意した。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

3　阿闍梨は、女御の命を救うために身代わりになろうとする大臣に心を打たれ、帝が遣わした尊い僧たちと協力して、自分も命が尽きるまで修法しようと決意した。

4　大臣は、死にそうになっている女御を見て、このまま死んでしまったらどうしようと気が気ではなく、女御と一緒に死んでしまいそうなほど心配した。

5　女御は、大臣があまりにも女御の病を心配するのを見て、もし自分が死んでしまったら大臣も一緒に死んでしまうのではないかと心配した。

問六　本文の内容に合致するものを、次のうちから二つ選べ。

1　帝は、出産間近の女御と、一夜も離れず一緒にいたいと思った。

2　松陰大臣は、四条京極あたりで女御が急に気を失った時も、冷静に対処した。

3　女御は、宮中から松陰殿に退出したことを、帝に申し訳なく思っていた。

4　帝は、女御のいる松陰殿には行かなかった。

5　帝から松陰殿に遣わされた僧は、霊験あらたかな修法によって女御の命を救った。

6　阿闍梨は、尊い僧の修法の声を聞き、自分も修行に専念したいと思った。

問七　二重傍線部について、「『さればよ』と思す」とはどういうことか、具体的に説明せよ（句読点とも三十字以内）。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第二講　復習問題

① 「思ひなしにや、…」の傍線部と文法的意味・用法が同じものを、次の中から一つ選べ。

イ　みな人ものわびしくて、京に思ふ人なきにしもあらず。
ロ　ここだくも狂ひに狂ひ思ほゆるかも
ハ　火の中にうちくべて焼かせたまふに、めらめらと焼けぬ
ニ　鬢は失せにたれば、ひたぶるになし
ホ　あづまの方にすむべき国もとめにとて行きけり

② 「いづくにか」の後に省略されているものを、次の中から一つ選べ。

イ　来める　　ロ　あらん　　ハ　参らばや　　ニ　あらじ　　ホ　多かりし

③ 「こよなくおこたりざまに見ゆる」の解釈として、もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　乳母は、一段とやせ細って全く別人のように見える
ロ　乳母は、とても怠けてくらしているように見える
ハ　乳母は、ずいぶんと病気がよくなっているように見える
ニ　乳母から見ると、都を離れている間に私はすっかり田舎っぽくなったようだ
ホ　乳母から見ると、私以上に怠惰な人間はいないように思えるらしい

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「帰寂したらんにはしかず」の解釈として、もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　命を捨てたであろうと推測して、それには間違いがない
ロ　命を捨てようと決心して、それに迷いがない
ハ　命を捨てようと決心して、それが周囲に知られることはない
ニ　命を捨てるならば、それに優ることはない
ホ　命を捨てるならば、それほど愚かなことはない

⑤「あればこそ」の文法的説明として適当なものを、次のうちから一つ選べ。

イ　動詞「あり」の未然形＋逆接確定を表す接続助詞「ば」＋詠嘆の間投助詞「こそ」
ロ　動詞「あり」の未然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ハ　動詞「あり」の已然形＋順接仮定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ニ　動詞「あり」の已然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の係助詞「こそ」
ホ　動詞「あり」の未然形＋順接確定条件を表す接続助詞「ば」＋強意の副助詞「こそ」

⑥「さればよ」の意味として、もっとも適当なものを次の中から一つ選べ。

イ　かえってよ　　ロ　こまったな　　ハ　さようなら　　ニ　なきたいわ　　ホ　やっぱりね

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

【第二講】

〈模範解答〉

問一　a　2　　b　5
問二　ア　2　　イ　3　　ウ　3
問三　5
問四　A　1　　B　3
問五　4
問六　1、4
問七　阿闍梨が、やはり女御には物の怪が憑いていると確信したこと。（二十九字）

〈現代語訳〉

女御のご出産の時期もお近づきになられたので、「松陰殿にお移りするのがよいでしょう」とおっしゃるけれども、（帝は）一夜の間もお離れになることをむなしくお思いになって（女御に）寄り添っていらっしゃったので、「宮中での出産は忌むと聞いていることだから」と言うので、（帝が）南殿で行われる宴にお出かけになった間に、人々が相談して（女御を）車にお乗せする。四条京極あたりを通り過ぎなさるころに、御簾の下から変な風が吹き込んで来たので、（女御は）ご気分が悪くおなりになって、たいそうひどくお苦しみになられたので、御供の者は皆、地に足のつかない様子で慌てふためく。「けれど、ここではどうしようもない。お車を急いで」と、言い騒ぐ。やっとのことで（松陰邸に）お入れ申し上げると、大臣も門の外までお出になられて、「これはどうしたらよいだろうか」とおっしゃって、一緒にお心が乱れるほどに（心配に）お思いになるけれど、（女御を）車からお降ろし申し上げて、（大臣は）お枕元を離れなさらないけれど、茫然自失の様子が深刻になりなさるので、「帝に申し上げるにしても、さぞかしご心配にお思いになるだろう」と恐れ慎みなさるけれど、「女御が危篤になったことを、帝にこのままお知

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

らせしないでおくことはできないだろう」とお思いになって、お知らせなさったところ、「やはりそうか。お名残が尽きそうになかったのは、こういうことであるのだろう」などと（おっしゃって）、その間際のことがお分かりになると、「（女御を宮中から退出させたのは、）いったい誰の策略だったのか。私も行かないではいられない」と、ひどく動揺なさるけれど、「軽率な行幸は、世間の人の思惑もございますので」と言って（お止めしたので）、世間で屈指の尊い僧たち、陰陽寮の役人、御宝の剣などをお遣わしになる。夜も昼もお使者の行き交う様子は、とても慌ただしい。

御修法の声は、絶える間もなく、護摩の煙は立ち続けているが、すこしのご効験さえもおありでないので、隠岐の島からお連れになった阿闍梨が、須磨からお帰りになるとおっしゃったのを、「ここまでいらっしゃって、故郷（の京都）をご覧にならないことがあるか」と伴っていらっしゃって、賀茂川の御堂に留まらせていたのをお呼びになって、このようなご病気で目の前が真っ暗になって、（大臣は）女御と一緒に死んでしまいそうなほど心配なさっている。もし女御がお亡くなりになれば、来世までも心の闇に迷ってしまいそうなので、死んでしまった時の葬儀の準備までご命令をなさって、涙ぐみなさるので、阿闍梨も「おいおい」とお泣きになって、「妊娠しているお身体には、物の怪などが憑く例がとても多くございます。もしそうなら、尊い僧たちが大勢いらっしゃるのだから、すぐにそれとお分かりになりそうなのに、日が経つにつれて病状が重くおなりになるようなことは納得がいきません。どんなに執念深い霊魂であっても、（私には）名前を告げるくらいの効験はあるでしょう。けれど、世間で物の数にも入らない身の上で、尊い方々の中に顔を出して加わりますのも、不審に思われるでしょうから、物越しにせめてお声だけでも聞きましたなら」とおっしゃるので、「どうして（遠慮することがあろうか）」とおっしゃってお連れになって、お屏風を隔てて（阿闍梨を）座らせなさったところ、奇怪なお声がして時々呟き込んでいらっしゃるので、（阿闍梨は）「案の定だ」とお思いになる。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

〈重要単語〉

○なやむ【悩む】…①**病気で苦しむ。**　②困る。　③うるさく非難する。

○ののしる【罵る】…①**大騒ぎをする。**　②評判が立つ。　③口やかましくいう。

○われかのけしき【我かの気色】…自分か他人かわからないほど、**正気を失っているさま。**

○さればよ…**やっぱりだ。**思ったとおりだ。

○おどろおどろし…①**気味が悪い。**　②**仰々しい。**

○みゆき【行幸】…**天皇のお出かけ。**
【御幸】…**院・上皇・法皇・女院などのお出かけ。**

○しるし【徴・験】…①前兆。　②**霊験。**効き目。
【標・印・証】…①目印。　②証拠。　③合図。
【著し】…①**はっきりしている。**　②予想通りだ。

○あまた…**たくさん。**

○やむごとなし…①捨ててはおけない。　②**格別だ。**　③**高貴である。**

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第二講　解答解説

〈解説〉

① 「に」の識別。問題文中は、「にや、」の「に」。「にや・にか・にこそ」で、その下が「、」か「。」の場合は、「**あら**む（**あら**め）」が省略されており、「に」の下に「**あり**」がある形から、「断定」の「に」と判断（「思ひなし」は「気のせい」という意味の名詞）。選択肢のイも、連体形に付いており、「に」の下に「**あら**ず」と「あり」がある形から「断定」。ちなみに、ロとホは格助詞「に」。ロのように、同じ動詞を重ねて、動詞の連用形についている「に」は、強調の働きの格助詞〈例〉「泣き**に**泣く」など。ホのように、動作の目的を示す働きの時も、動詞の連用形につく。ハは、接続助詞「に」。ニは、「ひたぶるに」で一語の形容動詞。

② 「結びの省略」の問題。先ほどの①でも触れたが、「にや、にか」の後ろが省略されていたら、「あらむ」を補う。よって、正解はロ。

③ 「おこたる」は重要単語で、「病気がよくなる」の意味。よって、正解はハ。

④ 「〜に（は）しかず」は、漢文で「比較」を表す基本的句法。「〜には及ばない。〜の方がよい」という意味（「百聞は一見にしかず」（＝人から百回聞くより、自分で一回見た方がよい）」で覚えておくとよい）。よって、「〜に優ることはない（＝〜の方がよい）」という解釈の、ニが正解。「帰寂」の意味は、選択肢より「命を捨てる」だと予測できる。ちなみに「したら**ん**に」の「ん（＝む）」の意味は、文中で、下が助詞から「仮定」。

⑤ 「あれ」なのでラ変動詞の已然形。「已然形」＋「ば」＝「順接確定条件」である。よって、正解はニ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

⑥「さればよ」は重要単語で、「やっぱりね」の意味。よって、正解はホ。

〔解答〕

①イ　②ロ　③ハ　④ニ　⑤ニ　⑥ホ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。